

2022年度 関東高校水球【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2022/7/25】

この試合のプレー集計

3回戦

芝浦柏

6

0	—	2
3	—	5
0	—	6
3	—	3
PSO		

16 秀明英光

審判：

新井 睦士

高村 尚志

芝浦柏	22	SH数	31	秀明英光
	0	速攻数	8	
	10	ST・SB	12	
	4	SH・P誘発アシスト	12	
	36%	GK阻止率	45%	
	4	EX反則数	5	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

インターハイ出場権の4校目をかけた一戦。千葉県勢として久々の出場権を手にする事ができるか、今大会注目の戦い。

1P

芝浦としては外周シュートに頼らず、どこまでゴール前でチャンスをつかめるかがポイントとなったが、なかなか秀明英光はそうした機会を作らせず、結局、芝浦は外周シュート。そこを起点に6:07秀明英光②六路木が速攻を決めて先制。さらに芝浦の6mSHミスを中心に、秀明英光エース④米谷がセンターから決めて、芝浦0-2秀明英光と、秀明英光ペースで第1ピリオド終了。

2P

序盤の退水攻撃チャンスでもシュートを外した芝浦は、秀明英光の攻撃を防ぎきれず(5:59⑩永井得点)、続けてゴール前への強引なパスからの速攻(5:23②六路木)、シュートミスからの6mSH(5:02②六路木)と3連続失点してしまった。この流れで完全に秀明英光が優位に立ち、余裕をもった展開となった。芝浦3-7秀明英光という4点差で前半を折り返した。

3P

ここでも芝浦の悪いリズムは修正できず、シュートミス、コントラ反則などから6失点。特に、秀明英光④米谷が1人敵陣で待機している状態でピリオドの最初のシュートは完全に見切られ、そこを④米谷が力でねじ込むシュートを決めたように、秀明英光側は狙い通り、逆に芝浦は軌道修正できない水球スタイルが如実に現れた状態であった。このピリオドで勝負はほぼ決ってしまった。

4P

芝浦、最後は力を振り絞って3点をあげるが、秀明英光にも3点を返され、結局、芝浦6-16秀明英光と予想外の大差で秀明英光がインターハイ出場権を獲得し、埼玉県勢としての連続出場を死守した。

敗れた芝浦は速攻数がゼロというように、相手ミスを突く出足や相手DFを崩すプレーがなく、その分、秀明英光に余裕をもってディフェンス対応させてしまった。千葉県勢の水球レベルを象徴する一戦でもあり、千葉県水球にとっては課題の多いことが明確となったわけで、悲願の全国大会出場に向けてのこれからの精進を期待したい。